

春野町における民間口承文化財（昔話）の調査・記録・公開による 地域文化の保存と継承

静岡文化芸術大学 文化政策学部 二本松康宏ゼミ

指導教員：教授 二本松康宏

参加学生：3年生 小鍋末羽、佐藤菜々美、藤井七海、望月花鈴

4年生 奥理咲子、島津華梨、中澤明音、永田絵美梨

※4年生はサポート参加

1 要約

浜松市天竜区春野町における民間口承文化財（昔話）の採録調査により、地域文化の保存と継承を目指す。

地域に伝わる伝説や家庭に語り継がれた昔話は、その土地に生きた人々の心と記憶の遺産である。しかし、近年の加速的な高齢化と過疎化によって、そうした民話の伝承は急速に消え去ろうとしている。それは、民話の伝承とともに受けつられてきた地域アイデンティティの危機でもある。民間口承文化財（昔話）の記録と保存、公開と継承は地域アイデンティティの再生と文化財保護の観点において緊急の課題である。

静岡文化芸術大学 二本松康宏ゼミ（伝承文学ゼミ）では、これまでに浜松市天竜区水窪町（2014年度～2016年度）、同区龍山町（2017年度）において民話の採録調査を実施してきた。そして、2018年度からは春野町での採録調査に取り組んでいる。これまでの調査成果は年度ごとに書籍として刊行し、新聞やテレビ、ラジオ等に紹介され、学術成果としても日本昔話学会等において高い評価を受けてきた。

そうした実績を踏まえ、平成30年度からは春野町において同様の採録調査を実施している。本年度は春野町における採録調査の6年目にあたり、最終年度となる。同町気田地区および砂川、大時、胡桃平地区を対象として高齢者が伝える昔話、伝説、世間話、言い伝え等を採録した。採録した民間口承文化財（昔話）は学術的な位置付けや記録価値を検証し、口承文化財としての保存（アーカイブ）を目的として「方言のまま」「語り口のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説を書き添え、書籍としての公開（刊行）を目指す。

浜松市天竜区春野町

世帯数 1,691世帯

人口 3,614人

65歳以上 2,040人（高齢化率 56.5%）

14歳以下 171人（4.7%）

（令和5年10月1日現在）



地区	自治会	世帯数	人口	65歳以上	14歳以下
気田	仇山	376	767	419	36
	下区				
	中区				
	上区				
金川郷島					
胡桃平	胡桃平	10	18	14	0
砂川	砂川	37	82	44	4
大時	大時	11	16	14	0

2 研究の目的

(1) 昔話の調査と研究の現状

日本各地の山間地域では極端な高齢化と過疎化が進み、かつてのように昔話を語り伝える人々は急激に減少している。それは地域におけるコミュニティとアイデンティティの危機でもある。1970年代から1990年代前半にかけては昔話研究懇話会（日本昔話学会）や日本口承文芸学会を拠点として、多くの大学のゼミや研究会によって組織的かつ本格的な昔話の採録調査が展開され、調査報告書の公刊が相次いだ。しかし2000年頃からは、そうした調査がきわめて困難になったといわれる。

背景1. 「お年寄り」の減少 → 高齢者は増えたが、戦後の高度経済成長を支えて働いてきた人たちは昔ながらの昔話を語るような「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなくなった。

背景2. 少子化の影響 → 山間地域では極端な少子化が進み、孫と同居する高齢者が減ったため、高齢者は自分が幼少期に聴いた昔話を孫に語る機会がなくなった。現役の語り手ではなくなった。

(2) 春野町におけるこれまでの取り組み

昭和60年（1985）には旧春野町教育委員会により『ふるさと春野の伝説』が刊行されている。しかし、同書に掲載された27話はすべて再創作（再話）と標準語化が施されている。口承文化財の記録としての価値・評価は限定的と言わざるを得ない。

3 研究の内容

(1) 調査の方法

- ① 令和5年5月から令和6年1月にかけて浜松市天竜区春野町気田地区、砂川、大時、胡桃平地区において民間口承文化財（昔話）の採録調査を実施した。
- ② 調査は二本松康宏が監修し、ゼミに所属する3年生4名が採録にあたった。
- ③ 浜松市春野協働センター（浜松市春野支所）と地域の各自治会にご協力をいただいた。
- ④ 採録した話は「方言のまま」「語りのまま」に翻字・記録する。
- ⑤ 採録調査にあたった学生が伝承地域の解説を執筆する。
- ⑥ 民間口承文化財（昔話）を「地域と家庭に受け継がれた心と記憶の遺産」と位置付け、その記録・公開、保存・継承を目指して、書籍として刊行する。

(2) 調査の記録

	4月20日（木）	自治会総会		9月10日（日）	春野図書館 文献調査
1	5月20日（土）	郷島、金川		9月27日（水）	春野協働センター 文献調査
2	5月27日（土）	上区、中区	12	10月22日（土）	補足調査
3	6月10日（土）	下区、砂川	13	10月28日（土）	補足調査
4	6月17日（土）	仇山、大時	14	11月12日（土）	補足調査
5	6月24日（土）	胡桃平	15	11月26日（土）	補足調査
6	7月1日（土）	個別訪問	16	12月9日（土）	補足調査
7	7月8日（土）	個別訪問	17	12月16日（土）	補足調査
8	7月15日（土）	個別訪問	(18)	12月18日（月）	補足調査
9	7月22日（土）	個別訪問	(19)	12月19日（火）	補足調査
10	8月5日（土）	個別訪問	20	12月27日（水）	補足調査
11	8月6日（土）	個別訪問	21	1月31日（水）	補足調査

(3) 採録調査の様子



(4) 採録の成果

約 90 名の高齢者と面会

話者カード登録 83 名 昔話 60 話、伝説 62 話、世間話 77 話、言い伝え 71 話、計 270 話を採録。

40 名の語り手による昔話 21 話、伝説 22 話、世間話 20 話、言い伝え 21 話、計 84 話を書籍に掲載する。

【参考】民間口承文芸（民話）の分類

伝説	時代や場所を特定し、その土地では歴史的事実のように信じられている。伝説をよく知る人は、その地域で「古老」「ものしり」として知られているため、採録調査は比較的容易。
昔話	時代と場所を特定しない（むかしむかし、あるところに）。家庭内で「子どものおとぎ話」として語り継がれてきたため、他人の前で話すのは恥ずかしいこととされがちで表に出にくい。
世間話	自分自身や近親者、知人などを取り巻く地域やコミュニティのなかで、「体験談」や「噂」として語り伝えられる。近年の「都市伝説」や「学校の怪談」もこの範囲に含まれる。
言い伝え	習慣や習俗、謂れなど。ストーリーを持たない。

(5) 「語りのまま」「方言のまま」— 民間口承文化財

近年では「語り部」として小学校や図書館などで昔話を語り聞かせる活動が広まっている。しかし、そうした活動では子どもにもわかりやすく標準語化され、あるいは再創作（再話）された話が大半を占めている。昔話や伝説は地域と家庭に伝えられた文化遺産である。標準語化や再創作は、いわば文化財の改竄に等しい。未来に伝えなければならないのは「語りのまま」「方言のまま」の地域の文化遺産である。

(6) 書籍としての刊行

採録した昔話や伝説の記録・公開、保存・継承を目指して書籍化



【参考】図書館への配架状況		静岡県内の公立図書館	国内の大学図書館
2014年度	水窪のむかしばなし	19館	9館
2015年度	みさくぼの民話	33館	13館
2016年度	みさくぼの伝説と昔話	32館	11館
2017年度	たつやまの民話	26館	11館
2018年度	春野のむかしばなし	33館	8館
2019年度	春野の昔話と伝説	30館	12館
2020年度	北遠の災害伝承 一語り継がれたハザードマップ―	18館	8館
2021年度	春野の山のふしぎな話	30館	6館
2022年度	春野の民話	27館	6館

新刊 春野のむかし語り (仮)

編著：小鍋未羽、佐藤菜々美、藤井七海、望月花鈴 監修：二本松康宏
 発行元：三弥井書店 発行予定日：2024年3月 A5版並製150頁 定価1,200円(税別)

4 研究の成果

- 当初の計画
春野町気田地区、砂川、大時、胡桃平地区において採録調査を実施。採録した昔話は「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説を書き添え、書籍として刊行する。
- 実際の内容
A(予定どおり)
- 実績・成果と課題
令和5年度の成果としてこれまでと同様に書籍を刊行する。
- 今後の改善点や対策
次年度は天竜区熊地区での採録調査を予定している。

5 課題提出者・地域への提言

春野町における民間口承文化財(昔話や伝説)は語り手たちの高齢化と急速な過疎化によって、いまや風前の灯火というべき状況にある。本来、昔話は世代を超えた地域文化の継承のためのコミュニケーション・ツールである。地域に伝承された伝説や家庭に語り継がれた昔話を地域文化の一つとして継承して欲しい。

なお、本年度は春野町の犬居小学校「Yes!家康プロジェクト事業」に参画し、小学生とともに春野の伝説をテーマとした方言劇を制作した。今後も本ゼミの成果(書籍)を小学生・中学校での地域学習に取り入れ、教材として活用していただけるとありがたい。

6 課題提出者・地域からの評価

静岡文化芸術大学伝承文学ゼミの天竜区春野町での民間口承採録調査も本年度が最終年度となりました。今回も何度か調査に立ち合わせていただきましたが、地域の皆さんが語る言葉を一言も漏らさずに拾いあげようと真摯に耳を傾けているゼミ生の様子に感銘を受けるとともに大変心強くも感じました。採録調査の日程が豪雨による道路の通行止めの影響を受けたり、地域の皆さんとの日程調整が思ったように出来なかったりと様々な苦労があったことと思います。その苦労を乗り越えて、埋もれてしまう可能性がある春野町の民間伝承を日の当たる場所まで掬い上げて地域の財産として記録をしていただいた学生の皆さんに心より敬意を表し感謝申し上げます。ありがとうございました。(浜松市春野支所 生涯学習グループ 花嶋徳光様)